

「国際果実野菜年2021」WEBシンポジウム

もっと果物と野菜を！
～健康的な食生活と行動変容を考える～

令和3年8月27日

独立行政法人 農畜産業振興機構

野津山 喜晴



INTERNATIONAL YEAR OF
FRUITS AND VEGETABLES
2021

1. 農畜産業振興機構alicについて

(1) 独立行政法人農畜産業振興機構 (alic、エーリック) とは？

- ・国の農畜産物に関する政策を執行する独立行政法人です
- ・主な業務
 - ① 国内の農畜産物の生産者の「経営安定対策」
 - ② 農畜産物の「需給調整・価格安定対策」
 - ③ 自然災害や家畜疾病の発生などに対応した「緊急対策」
 - ④ 農畜産物の「情報の収集・発信」

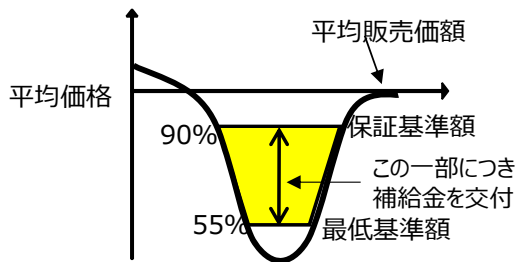


(2) 野菜事業の概要

①野菜価格安定事業

野菜の販売価格が平均価格の一定割合を下回った場合に、生産者に交付金を交付

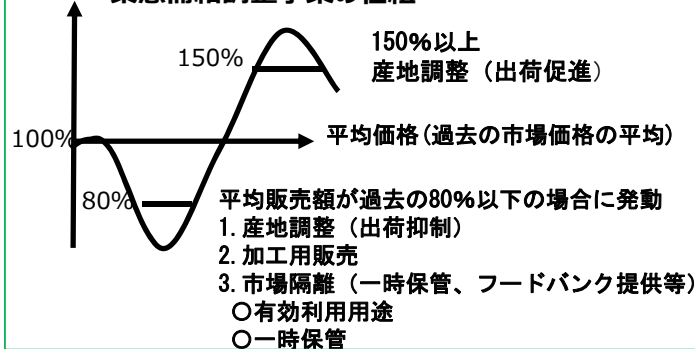
野菜価格安定制度の仕組み



②緊急需給調整事業

野菜の価格が著しく変動した場合に産地調整、加工用販売、市場隔離を行った生産者に交付金を交付

緊急需給調整事業の仕組み



③野菜情報の発信と需要拡大

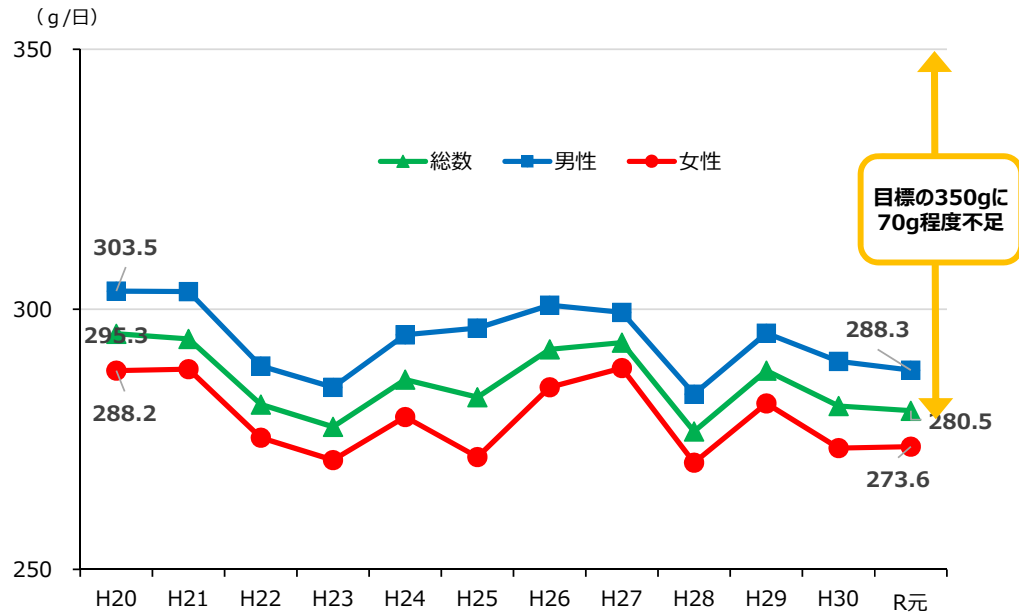
- ・「ベジ探」(野菜情報データベース) による卸売・小売価格、産地作柄、気象、輸出入、消費動向などの情報を発信
- ・国産野菜マッチングサイト「ベジマチ」の開設 (登録者約250)



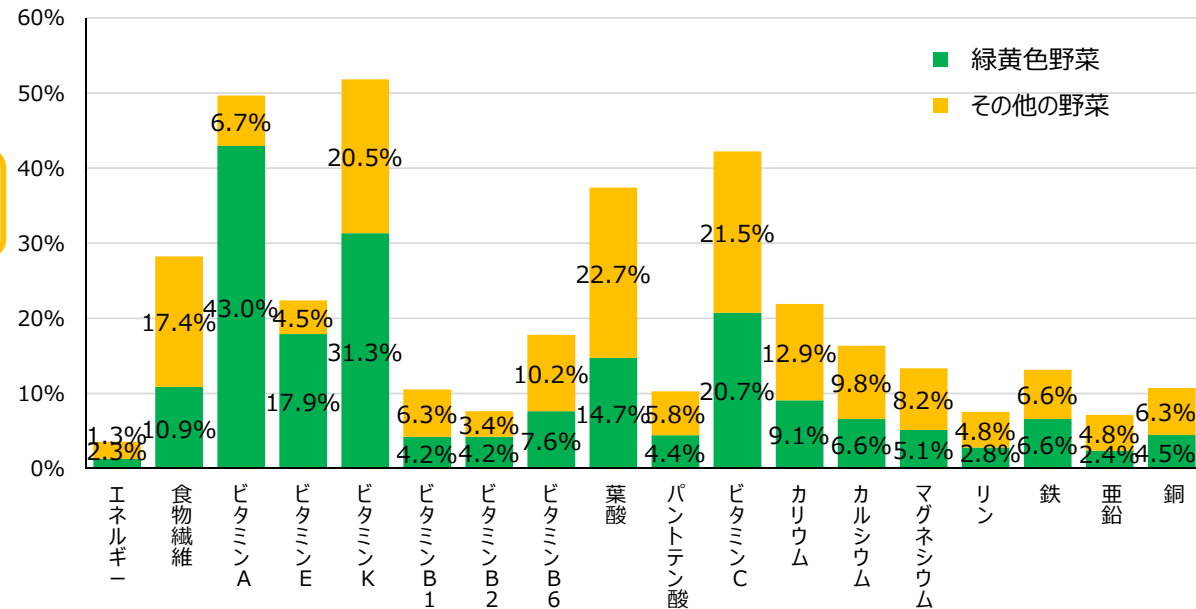
2. 1人1日当たりの野菜摂取量は280グラム ～野菜プラス1皿で健康な生活を～

- 令和元年の成人1人1日当たりの野菜摂取量の平均値は280g、野菜摂取目標量350gに70g不足
- 日本人は、ビタミンAの50%、ビタミンCの42%、カルシウムの16%、食物繊維の28%を野菜から摂取。野菜は健康な生活に欠かせないビタミン・ミネラル・食物繊維の宝庫
- 1日3食の中で野菜プラス小皿1皿（約70g）を摂って健康な生活を維持しましょう

野菜摂取量の平均値の年次推移（20歳以上）



日本人の栄養摂取のうち野菜が占める割合（1人1日当たり）



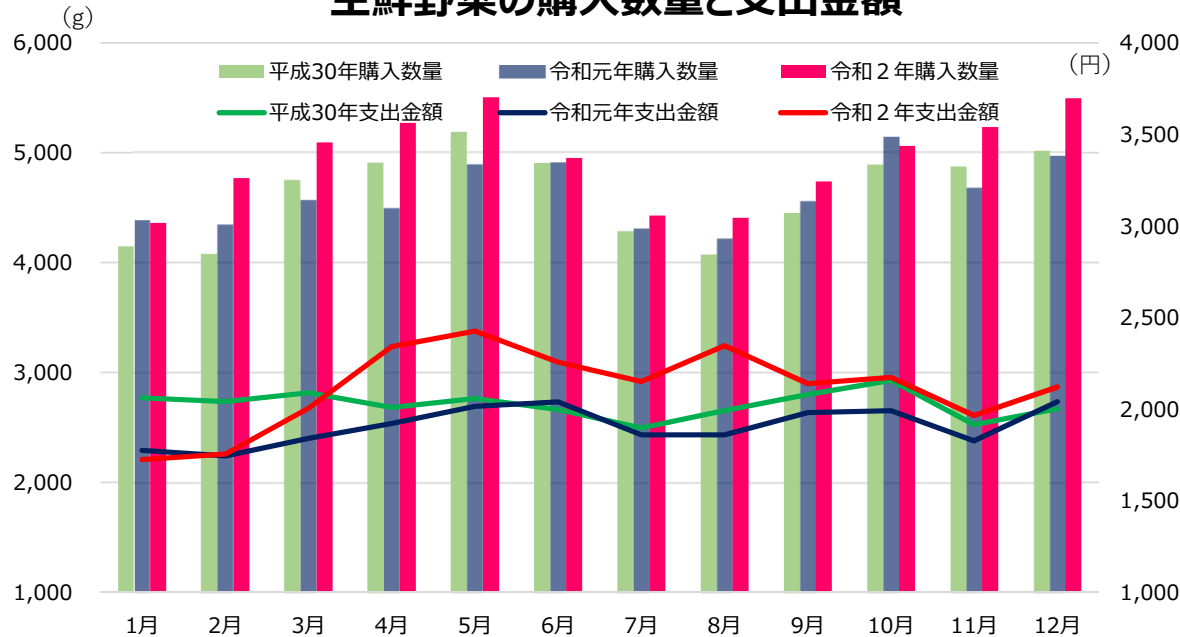
資料：厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査」

(注) ビタミンAはレチノール活性当量、ビタミンEはα-トコフェロール

3. コロナ禍で生鮮野菜の購入量が増加 ～たまねぎ・キャベツ・ばれいしょ・だいこんが増加～

- 令和2年の2人以上の世帯の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、家庭内の巣ごもり需要の増加によって、前年比7%増の59kg、支出金額は同11%増の2万5400円と、いずれも増加
- 購入数量が増加した品目は、たまねぎ17%増（支出金額は9%増）、キャベツ6%増（同21%増）、ばれいしょ5%増（同26%増）、だいこん4%増（同13%増）など、保管や保存がしやすい品目が増加

生鮮野菜の購入数量と支出金額



資料：総務省「家計調査」

令和2年に購入数量が増加した品目

品目	購入数量 (g)	増減		支出金額 (円)	増減	
		数量 (g)	率		金額 (円)	率
たまねぎ	6,296	901	17%	1,178	94	9%
キャベツ	6,143	346	6%	1,075	187	21%
だいこん	4,186	180	4%	584	65	13%
ばれいしょ	3,349	163	5%	957	196	26%
他の葉茎菜類	2,926	283	11%	2,380	231	11%

4. コロナ禍で中間事業者の加工・業務用野菜の販売金額は2割弱減少、外食向けは4～5割減少

- 第1～2回の緊急事態宣言期間を通じて、中間事業者（卸売・仲卸業者、商社、問屋、カット野菜業者等）の野菜全体の販売金額は4～7%減少する一方、加工・業務用野菜の販売金額は2割弱、外食業者向けは4～5割減少

新型コロナ禍における野菜の販売金額（前年同期比）

		1回目の 緊急事態宣言期間中 (令和2年4月～5月)	1回目の 緊急事態宣言期間後 (令和2年6月～12月)	2回目の 緊急事態宣言期間中 (令和3年1月～3月)
野菜全体の販売金額	138	-6.4	-3.9	-7.0
加工・業務用野菜の販売金額	136	-19.4	-17.6	-18.0
卸売市場（卸売市場法に基づく卸売業者・仲卸業者）	52	-23.0	-20.9	-18.8
卸売業者（卸売市場以外の問屋・商社）	39	-29.4	-27.7	-31.8
カット野菜製造業者（一次加工（皮むき、芯抜き等）を含む）	45	-31.7	-29.0	-39.7
加工食品の製造業者（漬物、調味料、飲料、冷凍野菜、乾燥野菜）	50	-32.6	-35.8	-32.0
外食業者	64	-55.3	-43.5	-45.0
中食業者	35	-36.7	-32.4	-29.8
給食業者	46	-36.7	-10.2	-34.8
小売業者等（青果店・量販店・食品スーパー・コンビニ・生協）	80	-15.4	-16.2	-17.9
小売業者等（ネット販売・通信販売）	15	-41.5	-48.1	-50.9
その他	11	-42.2	-32.9	-34.4

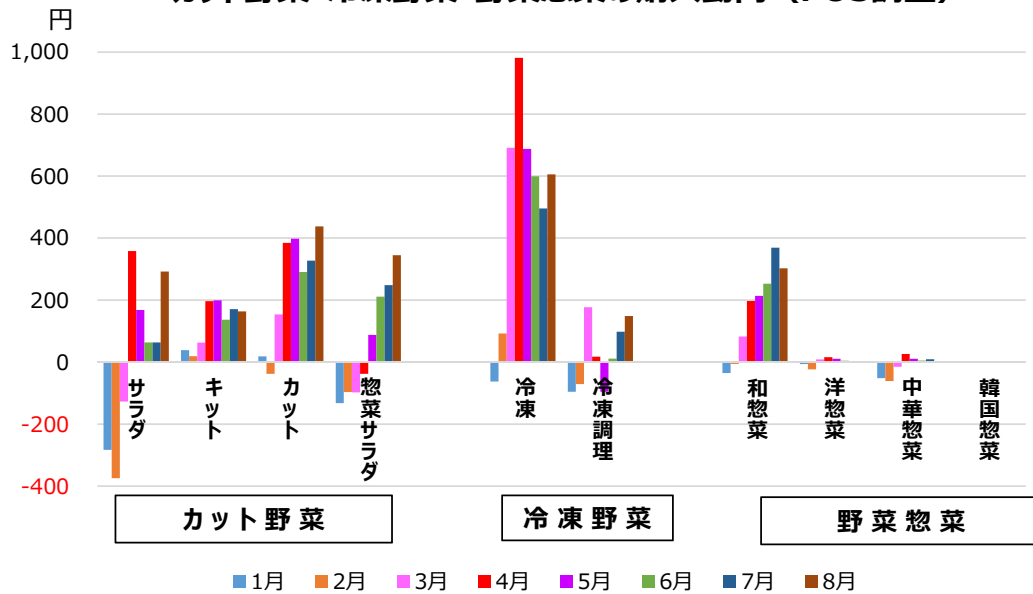
（資料）新型コロナ禍の加工・業務用野菜需要構造調査報告書（中間事業者192社へのアンケート調査）

5. コロナ禍でカット野菜・冷凍野菜・惣菜の購入額が増加、原体購入からカット・冷凍購入へのシフトが更に進展

- POS データで野菜の購入額をみると、令和2年2月頃から家庭内調理で使う原体のほか、カット野菜、冷凍野菜、サラダ、惣菜、食材キットなどの購入額が増加

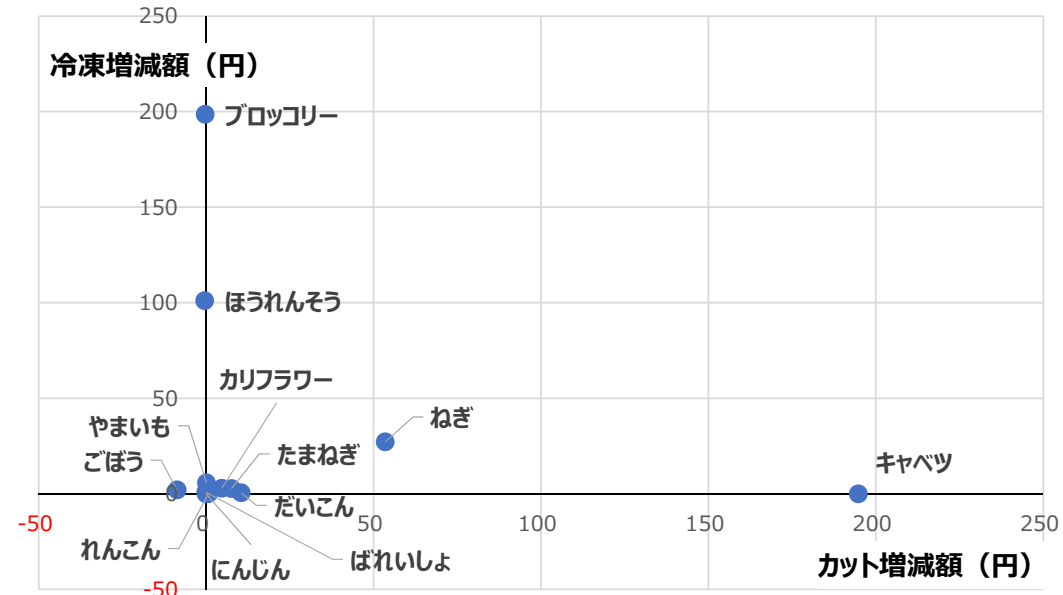
- 原体では貯蔵しやすい「たまねぎ、ばれいしょ、にんじん」、カット野菜では「キャベツ、ねぎ」、冷凍野菜では「ブロッコリー、ほうれんそう、ねぎ」の購入額が増加
- 家庭内調理需要の増加で生鮮野菜の原体購入が増加する一方で、原体購入からカット・冷凍購入へのシフトが更に進展

カット野菜・冷凍野菜・野菜惣菜の購入動向（POS調査）



（資料）農畜産業振興機構「新型コロナ禍における野菜消費の変化」

カット野菜・冷凍野菜の千人当たり販売額の増減（POS調査）



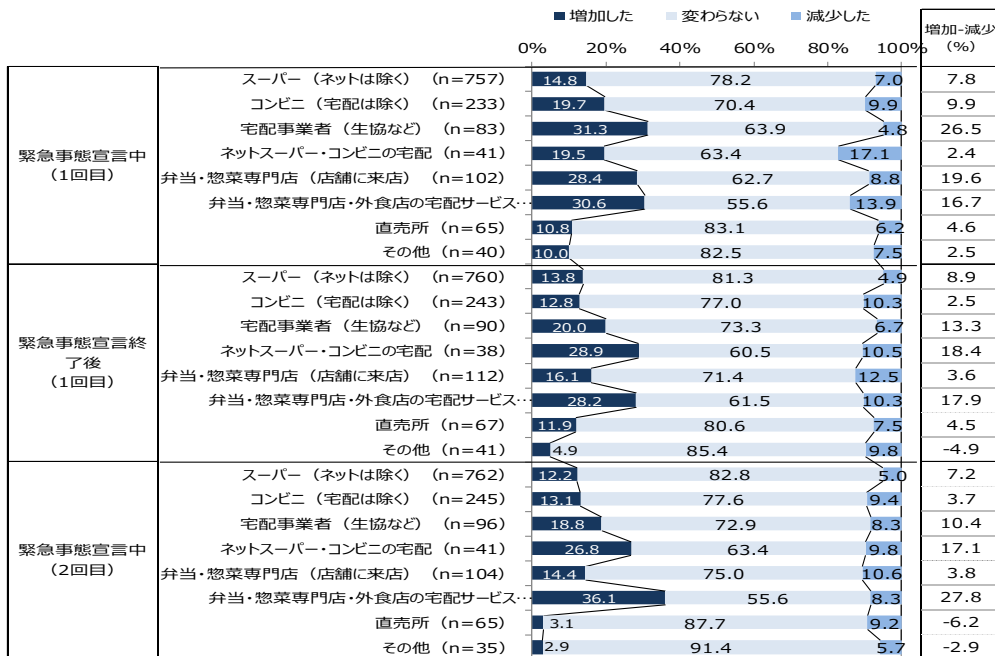
注：R2年3～6月千人当たり販売金額—H29～R元年3～6月千人当たり販売金額三ヶ年平均

6. コロナ禍で消費者の宅配等の非接触型チャネル利用頻度が増加、「健康」「節約」「ストック」の意識の高まり

- コロナ禍で主要な購入先であるスーパーの利用頻度の増加のほか、宅配業者、弁当惣菜専門店、宅配サービスなど非接触型チャネルの利用頻度が大きく増加。

- 消費者の野菜の購買意識は、「特に意識していない」が5割以上を占める一方、「野菜を多めに購入する」、「食費の節約を心がける」、「保存のきく冷凍野菜をストックする」、「免疫力アップを意識して野菜を多めに摂取する」などが2割程度を占める

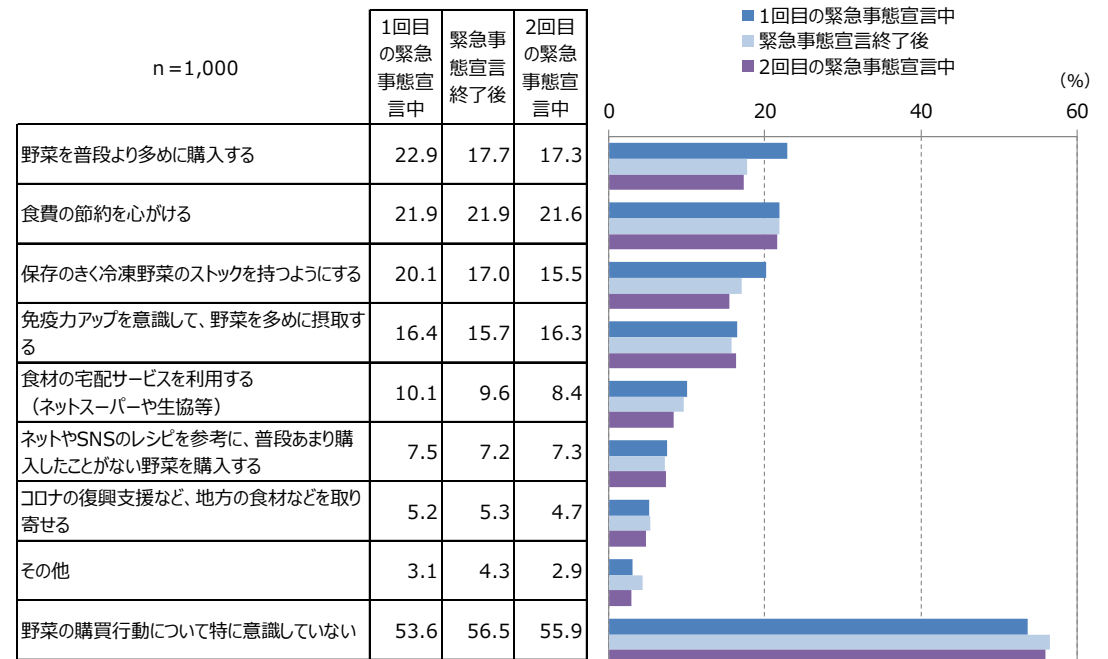
野菜の購入先の利用頻度の変化（各購入先の利用者ベース）



※一般消費者1,000人へのアンケート調査

(資料) 農畜産業振興機構「新型コロナ禍の加工・業務用野菜需要構造調査報告書」



野菜の購買行動について意識したこと



7. もっと野菜を食生活に取り入れるために

- コロナ終息後の消費回復を見据え、野菜の栄養価、健康・疾病との関わり、美味しさ、特色ある産地・商品などエビデンスの発信と健康・簡便指向などの消費者ニーズにあった商品づくり・食べ方の提案が重要

○ 毎月四季の野菜 2 品目の栄養価・産地・レシピを紹介しています (月報野菜情報)

9月の野菜	ほうれんそう	えだまめ
栄養成分と効能	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分：ビタミンA、ビタミンK、葉酸、鉄、カリウム、カルシウムなど ・効 能：貧血予防、肌健康保持、疲労回復など 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養成分：たんぱく質、カリウム、カルシウム、ビタミン、食物繊維など ・効 能：夏バテ防止、疲労回復、貧血予防など
四季の産地便り	「日本一のほうれんそう産地 飛騨高山」	「日本一の枝豆王国 新潟」
おすすめ簡単レシピ	<p>「ほうれんそうの簡単白あえ」</p>  <p>(レシピ作成：高松 京子)</p>	<p>「えだまめとたらこの卵焼き」</p>  <p>(レシピ作成：高松 京子)</p>

○ 「国際果実野菜年特集～四季の野菜と健康～」で取り上げる野菜 (月報野菜情報連載計画)

5月号 (4月下旬)	6月号 (5月下旬)	7月号 (6月下旬)	8月号 (7月下旬)	9月号 (8月下旬)	10月号 (9月下旬)	11月号 (10月下旬)	12月号 (11月下旬)	1月号 (12月下旬)	2月号 (1月下旬)	3月号 (2月下旬)	4月号 (3月下旬)
トマト にんじん	レタス キャベツ	ピーマン スイートコーン	たまねぎ きゅうり	ほうれんそう えだまめ	かぼちゃ やまのいも	はくさい ブロッコリー	さといも ごぼう	だいこん れんこん	ねぎ かぶ	ばれいしょ こまつな	なす にら

○ 8月31日野菜の日 (14:00~15:30) に「国際果実野菜年オンラインセミナー～新型コロナ禍の野菜消費と健康～」を開催します

- ①「野菜が持つ栄養素と健康について」 女子栄養大学 上西 一弘教授
- ②「野菜摂取量の改善が日本人の健康長寿を実現する！」 武庫川女子大学 松井 徳光教授